

発達障害支援に関するメールマガジン
『すまいる通信』配信のお知らせ

毎月20日に配信します



『すまいる通信』は、あらかじめご登録いただいた方にパソコンや携帯電話などのメールを利用して、支援に役立つ情報やイベントをお知らせするサービスです。ぜひご活用ください。

(情報利用料は無料。ただし通信料は自己負担となります)

新規登録、登録内容の変更・登録の解除

下記のアドレスまたは右の二次元コードより案内に従い、空メールを送信してください。

➡ <https://mail.cous.jp/setagaya-mail/>



〈配信元・問合せ先〉

世田谷区障害福祉部障害保健福祉課 TEL 03-5432-2227 FAX 03-5432-3021

世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」

開所日時

月～土曜日(祝日及び年末年始を除く)
午前9時～午後6時

利用方法

世田谷区在住の方を対象としています。
何かお困りのことがあれば、まず、世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」にお電話ください。

TEL 03-5727-2236(相談専用)

〒157-0074 世田谷区大蔵2-10-18
大蔵二丁目複合型子ども支援センター2・3階
TEL 03-5727-2235(代表)
FAX 03-5727-2238
URL <https://www.ryo-iku.jp/>

業務受託／社会福祉法人 トポスの会

〒123-0844 足立区興野2-18-12
TEL 03-5837-4840 FAX 03-3890-8121

編集後記

今回、本田真美先生には発達障害をめぐる様々な課題や対応などを体系的に網羅的に話して頂きました。話された内容は非常に多岐にわたります。ご講演をお聞きの方の中には、子ども達の成長に感じる期待や不安、疑問に関して、フィットしたご説明が多く含まれていたものと思います。

講演会の概要をこの「Gpress」に記載しました。また、当日の講演の模様を、世田谷区オフィシャルチャンネル(Youtube)に動画として掲載いたします。ぜひ、ご視聴頂ければ幸いです。

なお、本田真美先生には、たいへんご多忙のところ、貴重なお話を頂きました。重ねて感謝申し上げます。

アクセス



「成育医療研究センター前」「大蔵二丁目」バス停下車すぐ

東急バス

- 渋24 成城学園前駅 ⇄ 渋谷駅
- 等12 成城学園前駅 ⇄ 等々力操車所
- 用06 成城学園前駅 ⇄ 用賀駅
- 玉31 成城学園前駅 ⇄ 二子玉川駅

小田急バス

- 渋26 調布駅南口 ⇄ 渋谷駅

渋谷方面行きのバスにご乗車の場合は「成育医療研究センター前」で下車。成育医療研究センター行き、成城学園前駅行き、調布駅南口行き方面のバスにご乗車の場合は「大蔵二丁目」で下車。

※専用駐車場はありません。

Gpress せたがや

第53号

「ジープレスせたがや」
2024年
11月発行

発達障害理解のための講演会

子どもの発達障害(特性)の

理解と支援

～その子らしさを活かすために～



令和6年8月22日 成城ホールにて
あのねコドモくりにっこ院長 医師 本田 真美 先生
による講演会を開催しました。

▼中面にて講演内容の一部をご紹介します。

世田谷区オフィシャルチャンネル(Youtube)にて配信しています
令和7年度まで公開予定

まずはお電話ください

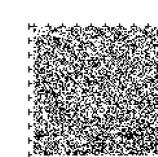
<https://www.ryo-iku.jp/>

「げんき」相談専用番号 **03-5727-2236**

「げんき」では、発達障害に関する全般的なご相談をお受けしています。



本講演会の動画を
令和6年度発達障害理解のための
講演会「げんき」



子どもの発達障害(特性)の理解と支援

～その子らしさを活かすために～

成長(growth)と発達(development)

私は小児科医ですので、いつも診療の中で子どもの成長と発達について考えています。成長とは「身体が大きくなること」です。一方、発達とは「できるようになること」です。子どもは発達段階を飛び越えることなく階段を一段一段上るように発達します。発達は量ではなく、質で見ないといけないと思っています。また、その人の能力を発揮するために、遺伝素因、学習・経験ができる環境素因、楽しい・面白いと思うモチベーションの3つが大切だと思います。

発達障害(神経発達症)の考え方

発達障害は特別なものではありません。スペクトラムの考え方は連続体なので、どこからどこまでが正常というものでもありません。「個性か、障害か」分ける線引きは何か」と考えた時に、私は社会適応だと思っています。ここでいう「社会」は、子どもの場合、保育園、学校、家庭などのことです。本人は変わっていなくても、A先生の時は「発達障害」、B先生になったら「個性」とされる子もいます。周囲が変わることで、線引きも変わっていきます。



相手がどういう気持ちだったか、自分が行動したことで次に何が起こるかイメージすることが苦手。こだわりや秩序性が高く、黒か白かはっきりしてほしい。

例：電車でのマナーを教える場合



読み書き計算、目の使い方、文字を音として捉える認知機能の問題。知的な能力は問題ないため、知的障害と学習障害は別物。

ADHD

DDC

注意・衝動・動き・感情などに関して、コントロールすることが苦手。自分の行動や状態を振り返って、行動を修正することも苦手。

例：声の大きさのコントロールが苦手な場合
場面に合わせた声の大きさを可視化して、パターンを練習する。



自分の体がどれくらいの大きさで、どれくらいの力でどうやって動くのか把握してコントロールをするボディイメージの問題。手先の使い方や、追視などの目の使い方が不器用。

講師 本田 真美 氏 (あのねコドモくりにっこ院長)

プロフィール

東京慈恵会医科大学卒業。医学博士。小児科専門医。国立小児病院にて研修後、国立成育医療研究センター、都立多摩療育園、都立東部療育センター、みくりキッズくりにっこ院長を経て、2024年9月にあのねコドモくりにっこを開院。
著書／認知特性タイプを知って隠れた「得意」を掘り起こす！子どもの『ほんとうの才能』を最大限に伸ばす方法(河出書房新社,2024)など



0歳から20歳は人生のもっとも大切な基礎～行動や精神的な問題の背景と年代別の対応～

問題の背景

本来の資質

- ・感覚過敏・運動発達
- ・言語的／非言語的コミュニケーションの状況
- ・イマジネーションの弱さ
- ・注意集中の問題

養育・教育環境

- ・大人との安心できる関係性
- ・子どもにあった環境の検討
- ・問題行動の背景への理解
- ・未学習、不足学習、誤学習

社会との関係性

- ・先生、友達、集団との相性
- ・アイデンティティを作る
- ・学習内容の複雑化(具体的→抽象的)
- ・人それぞれに異なる認知スタイルによる論理的思考

さまざまなイベント

- ・学校行事や人間関係のトラブル
- ・ネットやゲーム依存などの社会問題

年代別の対応

乳幼児期の対応のポイント

子どもからの発信を大人がキャッチして対応し、コミュニケーションをとる。

幼児期の対応のポイント

- ・子どもが大人に守ってもらったことで不安が解消され、安心感を得られた経験が積める環境をつくる。探索活動にチャレンジする力を育てる。
- ・適切な教育を受けたり、ソーシャルスキルを身に付けたりするための環境の検討。(例) 就学相談の利用

学童期の対応のポイント～9歳は学習や思考の転換期～

- ・小3(9歳)～の学習内容の変化(話しことば→書きことば、暗記→理論、社会・理科・算数などが始まる)に対応するために視る力を育てる。
※視る力：対象を見て、形を認識して、体をイメージ通りに動かす力
- ・認知スタイルにあった伝え方をする。
(伝え方の例) AとBとCの関係性を説明する場合
 - ・物事を段階的に理解するタイプ「AしてBすると、Cになるよ」
 - ・全体を捉えてから理解するタイプ「Cができるために、AしてBするよ」

思春期の対応のポイント

生活環境、友人関係、反社会的行動などは、特性への対応だけでは解決することが難しい。親が変わっていないと、子どもが変わらない場合もある。

その子らしく生きていくために 整えてあげたい4つの力



自己肯定感

ありのままの自分を肯定すること

レジリエンス

困難が起きた時にしなやかに対処する力

コーピングスキル

怒りへの対応能力や自分の疲れに気づいて対処する力

セルフケアドボカシー

何に困っていて何のヘルプが必要か社会にお願いする力



最後に

子どもと家族を支えるのが教育と医療と福祉です。医療における診断は、レッテルを貼るものではありません。子どもの特性や得意不得意を理解することで、周囲が子どものことを分かり、必要な支援が適切に選択されることで、子どもが生活しやすくなるために行います。医療的な介入をする時は、①早期介入による二次障害の予防をすること、②学んだり、育ったりする機会を逸しないこと、③利用できる支援(教育・療育・手帳など)を適切に使えるようにすることの3点を意識しています。

世田谷区の医療機関として、地域との連携をしっかりとながら、お子さんやご家族が「安心して住める世田谷区」になるように頑張っていきますので、引き続き、応援をよろしくお願いいたします。